[男女共同参画社会の実現をめざす情報誌]

OKAYAMA
1997.9
vol. 13

DUO
[デュオ]

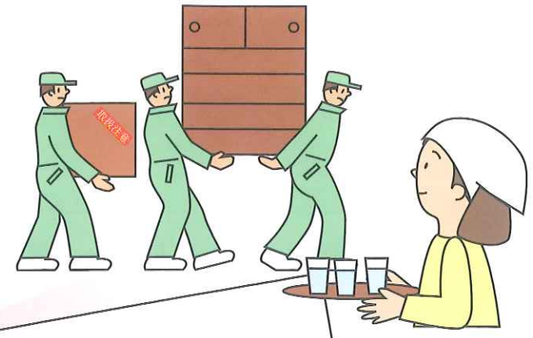
特集
「転勤」って、なあに？
家族的責任はどうなる

- 日本女性会議 '97おかやまシリーズ第3回
- 岡山県初の女性副知事にインタビュー

特　集

多くの現実を抱える

「転勤」って、なあに？



いつもゼロからの出発

いつまで気力が続くだろう・・・・・とむなしくなるのは私だけだろうか。

単身赴任してもらえばいい、いっそ転職したらどうか、そういうことではなく、私はただ家族3人仲良く暮らしたいと願うだけだ。そんなささやかな思いを実現するにも、転勤は誰かを犠牲にする。転勤とはいったいなんなのだろう。

近頃、「お仕事は？」と聞かれることが多くなった。女性が働くことが当たり前の時代だから尚更だろうが、「専業主婦です」という私の答えに驚き、「暇でしょう」とか「遊んでるのね」という返事が返ってくることも珍しくない。

夫は転勤族、2・3年周期で移動する。だから1年半も過ぎると、いつ辞令が出るか気になって身動きできなくなるのが常だ。確かに子どもに手が掛からなくなった分、時間はたっぷりある。働こうと思えば働けるだろう。しかし、転勤族の妻の仕事探しは、年齢制限よりも厳しい現実があるのだ。

なぜなら、いつまで働けるかわからない不安定な働き手であるから。それに退職時に仕事の引継ぎをしようにも、引越の準備は妻である私の受け持ちになっているから、十日前後で移っていくためには全て中途半端にならざるをえない。そんなことを考えると躊躇してしまう。昔取った資格も活かすことはできない。このまま転勤についていく限り、職業選択の自由はほとんど無いと思う。

誰も知る人のない土地では、夫と子ども以外に話す人もあまりいなくて、つい閉じこもりがちになる。それでも社会とのつながりは持っていたいと思うから、市が行う様々な講座に参加してみた。ボランティアの消費生活地域相談員の資格も得て、自分の居場所を見つけたような爽やかな気持ちになったこともある。

でも、所詮は転勤族、これからという時に辞令が出てしまった。夫の仕事柄、転勤が不可欠であることはよくわかる。私自身にとっても新しい土地で経験するあらゆる出来事は、長い目で見た時きっと人生のプラスになるはずだ。しかし、岡山で参加している活動を最後までやり通すことができるかどうか、今また不安になりながら、なぜ転勤族の妻は仕事もボランティア、社会活動もあきらめなければならないのかと叫びたい思いで一杯である。

（30代主婦）

転勤にまつわる家族の思い 選択の悩み

夫の単身赴任、子どもへの影響が心配

毎年お正月を過ぎると、夫の転勤の内示の時期まで不安の日々です。今年は、長男が中学3年といういわゆる難しい時期になり、高校進学を控えています。長男はお父さんっ子で、小さい時から野球をやってきて、もし夫が転勤になればどうしようと悩みました。

えっ！また役員？

PTA役員選出の時、必ずと言っていいほど、転勤族は委員を引き受けさせられる。今の学校ではまだ一度もしていないということと、働いていないということで、断わりにくい。こういうのって不公平じゃないかしら。

公園デビューもツライ

子どもを連れて初めて公園に行った日、「あなた転勤族？」と聞かれた。「ええ、そうです」と答えると、「じゃあ、友達になるのやめとくわ、すぐ引っ越しちゃうもの」と言われた。

夫の転勤で妻は退職？

結婚2年目。「今年は本社勤務になるだろう」と夫に言われ、私は職場（社会福祉施設）へ1月になって、3月末「退職」の旨を話していました。ところが、今年は転勤しないことに・・・。私は4月から、やむをえず「正職員」から「臨時職員」になって仕事を続けさせてもらっています。

転校生の不安

転勤による転校は、子どもが大きくなるにつれて不安が募ります。転校生や新しいものを排除する傾向がある現在の社会でいじめられたりしないか心配です。それらの事を考えると単身赴任・・・と頭をよぎります。

一方、夫の立場からはこんな声が・・・・・

出世をあきらめたけど

全国転勤のある公益法人に勤めています。転勤の話が何度かあったけれど、老親と子どもの教育のことを思うと辞退せざるをえなかった。転勤しないと昇進しないので、今でも主任のままです。男にとって昇進をあきらめることは辛いことです。子ども3人も成人し、親の責任が果たせたと思ったら、時々何のために仕事に行くのだろうと思うことがある。一人で黙って旅にでることがあります。

夢をあきらめないで……
女性の転勤

仕事を続けるのは至難のワザ

仕事を持つ身としていえば、夫の転勤は妻にとって“不利益”だと思う。仕事を続けるなら愛する夫と離れ離れだし、一緒に暮らそうと思えば好きな仕事をやめなければならない。本当は夫が転勤のない仕事に変わってくれたらいいのだけれど、そんな選択ができる男性は現在の社会ではごく少数だろう。

夫の転勤が決まった時、私はフリーランスの仕事を始めたばかり。これから基盤をつくろうという時に、仕事をやめることはまず考えられないことだった。世間一般では、単身赴任か、妻が仕事をやめてついていくかの二者択一になるところだが、私は夫が会社をやめて新しい職を探すという選択肢も提案した。当然だ。私だって就職してから骨身を削る思いで仕事をしてきた自信がある。夫が転勤、ハイそうですかと簡単に放り出すわけにはいかない。といっても別に夫に挑戦状をたたきつけたわけではなかった。私は仕事を続けたいが夫とも同じ空間で暮らしたい。そのため後悔が残らないように２人で納得のいく選択をしたかっただけだった。その点では夫とも考えが一致し、いわゆる世間の常識に惑わされることなく白紙の状態から新生活のベストプランを練ることになった。

結果、フリーランスという柔軟な働き方を生かして私が夫の転勤先に行くことになった。幸い、かろうじて私の仕事先に通える場所だったこともあり、新幹線通勤という多大な交通費の出費を覚悟で仕事を続けている。今回の私のケースは、二者択一を迫られない状況だったという点では恵まれていたと思うが、それでも本音をいえばもう転勤はしたくない。仕事でも私生活でも新しい土地で人間関係を築くには時間もかかるし、なによりかなりエネルギーを消耗する。こんな人生の大イベントを３年や５年のサイクルで迎えていたのでは身体がもたない。

でもこの先、転勤族としてまた決断を迫られる時がくるだろう。私達は現実の問題として、その都度一番いいと思える選択をしていくつもりだ。転勤という運命で、得るものと失うもののどちらが多いのか今はまだわからないが・・・。

（３０代 女性）

周囲の理解が得られて

「東京での仕事を引き受けませんか？」という話を、おおいに関心を寄せていた分野の仕事であることと、二度とない人生経験のチャンスであるとの思いから引き受けることにした。

その時、夫は家から通勤、子どもたちは別々の地で下宿生活、母は十年前より福祉施設での生活であったが、東京への単身赴任については家族からの反対はなかった。私はそれまでも好きな暮らし方をしていたので家族もあきらめていたのだろうか。しかし、本当に転勤の決心がついたのは、母の世話をしてくれている方たちが「行っておいでよ！お母さんは私たちが面倒みましょう。帰ってきたら勉強してきた事を教えてね」と言ってくれた時だった。それはもう嬉しかったし、感謝している。さらに、交通網の発達と私の単身赴任の実現は切り離しては考えられない。平均ひと月に2回は帰岡した。在岡時間は地域社会との事、母の事、夫の事・・・と動き回る。片道5時間の乗り物の中だけが休息タイム。でも悔いはない。

赴任先では、その分野において日本の第一人者と称される人々に囲まれて仕事をすることができた。彼らは仕事を離れたところでも常に前向きな生き方で活動的だった。日本各地の文化・世界の文化に接触できる喜びと緊張感に包まれながらの毎日だった。赴任して半年、岡山の友人が、「輝きだしたね」と言ってくれた。帰宅時刻も食事の支度も近所付き合いも何も気を使わなくてよい。24時間すべてが自分のもの。仕事も趣味も存分にできるのだから。男性の〈仕事への没我の境地〉はこれなのだと妙に納得できた3年間だった。

この東京転勤は、私に家族って何だろうと考えるきっかけをつくってくれた。家族であることは、互いにしていることを認め合えることなのかなあ？と思っている。

（40代女性）

離婚に至ってしまったけれど

“女は無理して仕事なんかするな、ほどほどにしていればいい・・・”が口癖の夫と離婚した事に悔いはありません。真面目に仕事をしていると興味も出てくるし、信頼してくれる人たちとも幅広くお付き合いできます。しんどい事もあれば「やった！」と満足する事もあります。生きていておもしろいと思います。

私は子育て後の再就職なので、仕事は一般事務職でした。本社で一年間勤めてみたら？と上司から勧められ、夫婦で何度も話し合いました。夫は相変わらず反対。私はせっかくの機会だし自分自身を試してみたい・・・と対立。子どもたちは中学生、何かの折は隣家の義母の応援をアテにして、とにかく一年間だから、と単身赴任しました。土・日曜日は帰岡。私はおかず（冷凍保存食）作り・掃除・洗濯・子どもの学校の事・・・、夫は少しは変わったかもしれないけれど「マイペースの人」でした。本社の仕事は慣れるにつれて内容的にも責任のある業務へと変わっていきました。一年間の約束がもう一年延長となりました。しだいに私自身も疲れが残り、仕事も多忙ということで毎週末は帰れなくなり、息子も高校受験・・・と家族みんなが精神的にも肉体的にもストレスで大変でした。

二年後、私は「栄転」で岡山支店へ。収入も増えたので念願の一戸建て新居に移りました。けれど私たち夫婦は、気持ちを通わせることがしだいにできなくなり、離婚。夫だけが元の家に戻っていきました。

離婚ということは寂しい事だけれど、今の私は（これからも）仕事を抜きにしては考えられません。思い返せばしんどい単身赴任経験でした。だからこそ今の充実している毎日があるのだとも思います。

（40代女性）

家族的責任はどうなる？転勤をとおしてみえてきたもの

「転勤族の妻って、なんだろう？」一つの投書をきっかけに、今号の特集では「転勤」を通して私達を取り巻く状況へ目をむけてみました。すると様々な厳しい現実が浮かび上がってきました。特に女性が転勤する場合には、仕事を続けるため、キャリアアップのため、本人の努力はもちろん家族や周りの人達の支えが欠かせないことがわかりました。「転勤」はけっして個人の問題ではなく社会が抱える問題であることが明らかになってきたのではないでしょうか。

ところで国際的には、「家族的責任は男女が共に担うもの」という理念から、すでに1981年『ILO156号条約・165号勧告』（＊用語解説参照）が採択され、日本政府も1995年4月に批准しました。その趣旨は「家族的責任をもつ労働者の、職業生活と家庭生活との両立のための施策を講ずること」などとなっています。とりわけ165号勧告では、「転勤にあたり、家族的責任、配偶者の就業場所、子女の教育などを考慮すること」となっています。

「転勤は当たり前」とあきらめていたことも、新しい社会の流れのなかで、女性も男性も共に見つめ直していくことが求められているのではないでしょうか。

Information

女性の再就職サポート

女性が結婚・育児・介護などのため、また夫の転勤により仕事を中断しても、再就職を希望する人には技術の取得や、両立支援のためのサポートシステムがあります。

岡山県女性職業センター
岡山市出石町1-1-101
TEL086-222-3687

◆ワープロ・パソコン・経理事務の技術講習会をしています。受講料は無料で、平成9年度下半期は7回実施を予定しています。

◆就職準備講座として、1日コース（講演）と6日コース（働く時に必要な知識：働く女性のマナー：センスアップにカラーコーディネート：ワープロなど）があります。

岡山雇用促進センター
岡山市柳町1-1-27太陽生命ビル4F
TEL086-231-3666

◆能力開発をして、新しい技術を身につけられます。6ヵ月コースでは、金属加工、電気などがあり、ポリテクセンター岡山で訓練をしています。3ヵ月コースでは、OA機器、オフィスビジネス科があり、専門学校へ委託して訓練をしています。

◆職業ガイダンスとして、コンピューターによる適職診断や、就職のための情報提供などガイダンスが受けられます。

21世紀職業財団
岡山市磨屋町10-20磨屋町ビル6F
TEL086-227-2021

◆両立支援のためにセミナーの実施やフレーフレーテレフォンサービス（育児・介護に関する各種サービスについて電話で相談受付）をしています。

◆パートタイム労働にかかる情報の提供や助言・援助もしています。

岡山ファミリー・サポート・センター
岡山市鹿田町1-1-3中島ビル2F
TEL086-227-2525

◆育児を応援してほしい方と育児を応援したい方の相互援助活動をしています。仕事以外でも母親の病気や資格試験を受けるためや、保育施設への送迎、保育時間外の世話もお願いできます。

●シリーズ●

日本女性会議'97 おかやま

第3回

10月23・24日、岡山市で開催する「日本女性会議'97おかやま」についてシリーズでご紹介します。日本女性会議'97おかやまは、120名の実行委員が4つの部（事業部、分科会部、広報部、総務部）に分かれて準備を進めてきました。いよいよ開催間近、今回は、各部から実行委員のメッセージと、関連行事をご紹介します。

週間行事

展示（無料）

10／15（水）～20（月）天満屋地下市民ギャラリー

●「街角ウォッチング写真展」―表現された女―

街角に設置されている彫像や塑像は"芸術"として愛されてきました。しかし、その中には女性たちが不快に感じるものもあります。ちょっと視点を変えて考えてみませんか。

●「パネル展」―岡山の歴史をつくる女たち―

戦後、女子教育や政治、芸術、社会活動等いろいろな分野で活躍してきた岡山の女たちのパネルと年表を展示します。

10／17（金）～20（月）天満屋6階みどりの広場

●「パネル展」―グループ活動―

日本女性会議'97おかやま実行委員会の参加団体で、現在、岡山市を基盤に男女共同参画社会の実現に向けて活動している状況をパネルで紹介します。

10／23（木）～24（金）岡山シンフォニーホール1Fガレリア

●「街角ウォッチング写真展」＆「パネル展」

映画祭

「シネマと世界の女たち」10／25（土）～31（金）於シネマ・クレール　（当日1500円・前売1300円）

女性の新しい生き方を描いた作品、女性監督作品、現在の日本の女性の状況にフィットする作品、世界の女性の状況を伝える作品など、女性の視点でとらえた映画を上映します。

㊀託児付上映もあります（要予約）。（問い合わせ）岡山市役所女性政策課 ☎ 086-225-4211（内線3242）

	10／25（土）	10／26（日）	10／27（月）	10／28（火）	10／29（水）	10／30（木）	10／31（金）
10：45	森の中の淑女たち	こわれゆく女	㊀ある貴婦人の肖像	㊀ルッキング・フォー・フミコ	女人、四十。	㊀ 月の瞳	㊀ ファーゴ
13：30	ファーゴ	女人、四十。	森の中の淑女たち	女たちの証言	こわれゆく女	ある貴婦人の肖像	森の中の淑女たち
16：00	銀馬将軍は来なかった	森の中の淑女たち	月の瞳	戦士の刻印 血の絆 サリー・マン			女人、四十。
18：30	愛のお話	ある貴婦人の肖像	ルッキング・フォー・フミコ	新宿ボーイズ＆ドリームガールズ	ファーゴ	女たちの証言	銀馬将軍は来なかった
20：30	戦士の刻印 血の絆 サリー・マン		新宿ボーイズ＆ドリームガールズ	月の瞳	愛のお話	ルッキング・フォー・フミコ	

ポスト会議

女たちはいかにエンパワーしたか

11／29（土）
西川アイプラザ
（無料）

「日本女性会議'97おかやま」を振り返り、男女共同参画社会の実現へ向けたネットワークづくりや、今後の具体的なアクションを語り合います。

日本女性会議とは、1975年（昭和50年）の「国際婦人年」と、これに続く「国連婦人の十年」（昭和51年～60年）を記念して、日本の女性問題の取り組みを進めるため、各都市が連携して昭和59年度から毎年全国規模で開かれている会議です。

日本女性会議'97おかやまは、「自分らしく生きられる社会に！」をテーマに10月23日・24日、シンフォニーホールを主会場に開催します。1日目は、マスコミを通じて新しい女性学を提唱している田嶋陽子さんの基調講演と手づくりミュージカル、8つの分科会、交流会。2日目は上野千鶴子さんをコーディネーターに迎え、「社会を動かす女のエンパワーメント」についてパネルディスカッションを行います。

また、関連行事として週間行事とポスト会議も開催します。

実行委員のメッセージ

～みんなで作り上げていく～

女性会議という言葉さえ知らなかった私にとって、その実行委員になり、事業部の中の一つの係のチーフになったことは偶然からでした。母子クラブ代表という立場で参加し、なんとなくやってみようかから始まりましたが、現在みんなで一つのものを作り上げていくことの難しさを体験しています。女性問題に知識も経験もありませんから、チーフとして私にできることはと考えて、記録したり、皆さんの意見を部会で提供する、連絡する、そんな役だと理解し行動しています。十分に意見が伝えられず、自分の力のなさを痛感するばかりですが、たくさんの人との出会いに感謝している今日この頃です。そして会議を終えた時に、少しでも自分自身に財産になればいいなと考えています。夜に出かけることが多く、それを快く許してくれた家族にも感謝するとともに、まだ小さい我が子達にお母さんのやっていたことを理解してもらえる日が来ることを楽しみにしています。

事業部　浅海智子

～保育システムを作ってみた～

のんびりやの私にとって、エネルギッシュな実行委員の方々との出会いは驚きと感動の連続！（一種のカルチャーショックかも・・・）。約120人の実行委員が中心になって進めた準備は大所帯ゆえの大変さもあったが、いろんな声が反映できてスタッフの思いがこもってるなぁ、と実感。開催当日はもちろん、ふだんの部会や総会などに託児がついたのも嬉しかった。いざ託児をつけるとなると、利用希望者の確認や保育スタッフの募集、利用システムや関連書類の作成、予算、保育料、保育ルーム、保険、おもちゃや救急セットといった備品についてなどなど、やることが山積み。私自身、4歳の娘がいて、その立ち上げから仲間と考えていけたことは貴重な経験になった。利用者は少なくても"幅広い層の参加"への大きな一歩。私が参加している日本女性会議初（話題の？）"暴力"をテーマにした第3分科会とあわせ、"行動することの意味"を考えるきっかけになったと思う。

分科会部　千脇幹子

～行動の1歩はことばから～

4月のある日。広報部員4人で、新聞社8社を訪問した。担当記者に説明する人は、じゃんけんで順番を決めた。話す内容をワープロで打ってきた人もいた。新聞社の人達の応対は、素人の私達に対してやわらかで丁寧であった。

実行委員の数多くの人は、女性会議が岡山市で開催されることをいろいろな人達に知ってもらいたい、と思っている。そのために広報部の私達がいる。マスコミに女性会議の目的・内容・日程をわかりやすく説明しなければならない。そして、相手が共感を抱けるように、話をもっていかなければならない。伝える・と・伝わるという事は同じではない。大切なのは何なのか、どの部分を一番伝えたいか、その為には何をどのように話せばよいか、考えて口を開かなければいけない。相手をうなずかせるのは、難しい事だ。人に対する説明も「経験を積めば上手になるだろう」という望みをもって、前に進んでいきたいと思う。

広報部　古田初江

～毎日シミュレーション～

総務部の仕事は会議全般にわたる事が多く、一つの事柄を進めるにあたり、先ず素案作り、事務局との打合わせ、部会で討議、更に各部から意見を出し合い、調整、決定していく。これが最も良いと考えていても後になって更に良いものへと変更されていく。

当初、精一杯力んでやっていただけに、時には投げ出したい事もあった。今ではどうすれば参加者に喜んでいただけるか、どうすれば効果的に運営できるか毎日ワープロと向き合いながらシミュレーションしている。

さて、2日間の会議で欠かせないのがお弁当。係の方々を中心に、岡山らしさを盛り込みたいと、米の選択、ご飯の量、おかずの品々、味、彩り等について試食を繰り返し行い、また「ゴミを出さない会議に」と全て可燃性の容器を選び、希望通りのお弁当ができあがったと総務部では自負している。当日は参加者の方々に岡山らしさを味わっていただきたいと思っている。

総務部　藤田澄子

1997.9
DUO
VOL.13
男女共同参画社会の実現をめざす情報誌
DUO デュオ 第13号 発行／岡山市総務局市民生活部女性政策課
〒700 岡山市大供一丁目1番1号 ☎086(225)4211 内線3242

INTERVIEW

岡山県初の女性副知事にインタビュー

岡山県副知事
太田房江さん

昭和50年東京大学経済学部卒。同年通産省入省。通商産業研究所研究主幹、住宅産業課長、近畿通産局総務企画部長などを経て、平成8年8月から今年6月24日まで消費経済課長。広島県呉市出身。

男女共同参画社会の実現に向けて、どのように取り組みをお考えですか？

まず女性問題に関する岡山県の実情をつかむところから始めようと考えています。じかに皆さんの考えていること、"生の声"を聞きたいですね。私は、地域づくりや経済発展のためには、女性という人材を積極的に活用したほうが得ですよと思わせることが大切ではないかと思っています。そのためには、時間をかけて女性の真の有識者を育てることと、企業や組織が進んで女性を活かしたくなるような仕組み作りが必要ですね。正直申し上げて、今まで女性問題を女性の視点でとらえるような機会がなかったので、一から勉強したいと思っています。

女性として長く仕事をされてきていかがですか？

これは私の持論なんですが"良い組織は女性の能力を引き出す男性がいる"というのが実感ですね。余裕があるというんでしょうか、そういう男性がいるかどうかは、組織の柔軟性や成長力を示す指標になります。私が通産省に入った時は、50人中女性は私1人。お会いした方が必ず顔を覚えてくださったり、思わぬお話が聞けたり、得したことも結構ありますよ。女性は組織の中でマイナス面を背負いがちですが、プラスになることもあるというのが体験からの本音かな。でも私の場合は運の良さもあったので、実態がそうでなければそれは是正していかなければと思います。

現在、単身赴任されているそうですが。

夫と犬一匹を大阪に残して来ています。子どもはいません。忙しいけれど、できるだけ大阪には帰るようにしています。夫と顔を合わせるだけで通じることもありますしね。時間も体力も大変なことは多いですが、出会いや人の輪の広がりが魅力で仕事を続けてきました。

用語解説

「ILO156号条約」

この条約は、「家族的責任を有する男女労働者の機会および待遇の均等に関する条約」という国際労働条約で、日本は1995年に批准しました。

この批准によって、家族的責任を有する男女労働者が、差別を受けることなく、できる限り職業上の責任と家族的責任とが抵触せずに職業に従事できるようにすることを政策目的とする義務を負うことになります。

この条約を補足し趣旨を具体化するためにILO165号勧告があり、育児・介護などの家族的責任は男女が共に担うべきであり、国も育児・介護の休業制度を充実・整備して、それをサポートしていかなければならないという考え方が明確になりました。

編集後記

今回は転勤をテーマに取り上げました。当り前のように思っていた転勤が、いろいろな方のお話を伺ううちに、現実にはとても厳しいものであり、また、大きな転機となることもわかってきました。皆さまのご意見やご感想をお待ちしています。

事務局A

本誌ご希望の方は女性政策課へ